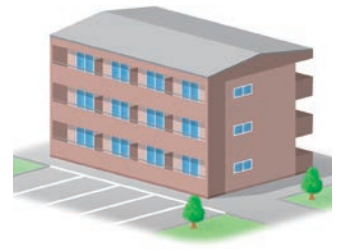




丸山 英邦 議員
(七尾のみらいをつくる会)



一般質問

■復興公営住宅の受け入れに柔軟な対応を

建設型応急仮設住宅の活用促進を！

質 復興公営住宅は、仮設住宅入居者へのアンケートを基に戸数が決定されてきたが、みなし仮設住宅入居者や市外避難者など対象から漏れた人、事情の変化により仮設住宅へ入居した人、抽選で希望どおり入居できなかった人がいる。また、ペットとの同居や近隣関係への配慮、住宅再建のため一時的な住まいの必要性から、再募集を求め声や周知不足を指摘する声がある。復興公営住宅は住まいの確保に加え、地域や住民同士のつながりを守る役割が重要である。そこで、①住民要望に応じた追加募集や建設の可能性、②他被災地事例を踏まえたペット可住宅など柔軟な対応、③一部で空きのある建設型応急仮設住宅について、復興に携わる方や住宅再建のため一時的な住まいを必要とする人への活用も含め、市の考えを問う。

答

①これまで複数回実施した住まいに関するアンケートや事前申込み調査の結果を踏まえ、必要戸数および建設場所を決定しており、現時点で追加の建設や募集を行う予定はないが、個別の事情に応じた相談については、引き続き窓口で対応していきたい。
なお、空き住戸が生じた場合には、既存の市営住宅と同様に一般募集を行う考えである。
②ペット飼育に関しては、被災者の生活再建や心の支えとして重要であるとの認識に立ち、飼育状況や希望の把握を行ったうえで、専用住宅整備の可能性について検討していく。
③建設型応急仮設住宅について、今後、住宅再建や復興公営住宅の完成により空き住戸が出てくることから、仮設住宅の目的外使用について、ニーズの把握を行い、ニーズがある場合はその内容を踏まえ、活用及び運用方針を検討していく。



木戸 奈諸美 議員
(市民クラブ)



一般質問

■市長の政治姿勢と市政への信頼回復について

能登鹿北商工会との懇談会対応をめぐって

質 昨年12月に開催された能登鹿北商工会懇談会を市長が急遽欠席された件について伺う。
地域の経済振興を担う極めて公共性の高い団体である商工会との懇談会は、コロナ禍、そして災害を乗り越え、何とか現場で踏ん張る事業者の皆様の声を直接伺う何ものにも代えがたい貴重な場であったと考える。
当日の具体的な判断に至るまでの事実確認と市長の真意を改めて伺う。

答

質問の内容は、特定の懇談会における出席対応や個別の出来事に関するものであり、市の政策そのものに関するものではないと認識している。
なお、能登鹿北商工会は、地域経済を支える重要な団体であり、市は震災復興や地域経済の再生に向け、連携して取り組んでいるところである。
また、市としては、行政と経済界が対立するのではなく、震災からの復興という共通の目標に向けて協力していくことが重要であり、その関係を大切にしながら市政運営を進めていきたい。
そのうえで、市と商工会の関係については、現在も様々な場面で連携しており、信頼関係が損なわれていないとの認識はないため、今回の懇談会については、副市長が出席し、市としての考えを伝える対応とした。